議会だより もろつか

令和元年5月

令和元年 第161号
編集 議会広報編集特別委員会
発行 諸塚村議会

もくじ

平成31年度一般会計予算 …… 2
総括意見・個別意見 …… 3
一般質問 …… 4～5
歳入歳出予算に対する質疑応答 …… 6～8
議会活動報告 …… 8
所管事務調査報告 …… 9

〒883-1301 宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代2683 ☎(0982)65－1130

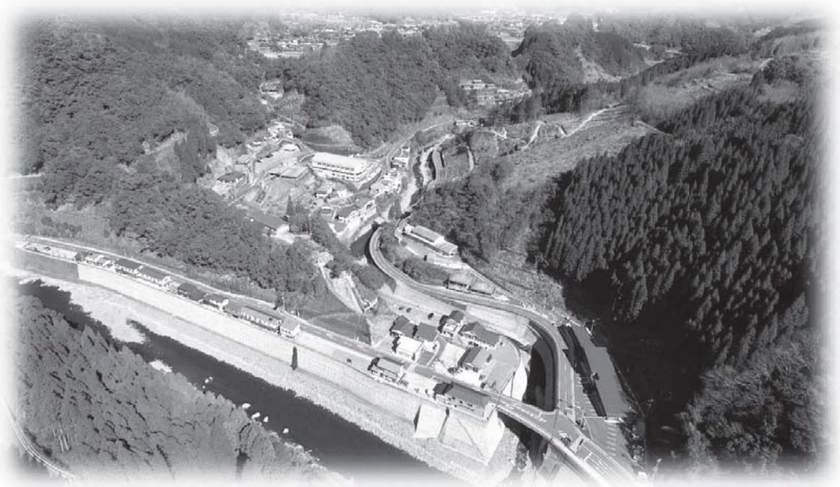
総括意見

安倍内閣は、アベノミクスの第二ステージ「新3本の矢」そして「一億総活躍社会」を目指して財政政策に取り組んだ結果、緩やかに景気の回復基調が続いていたが、ここにきて、対外的には米中貿易摩擦、英国のEU離脱問題等に起因し、景気の動向指数が下がりつつあり、我が国経済の先行きに不安を与える状況にある。また、地方創生が始まり4年を超えたにもかかわらず、東京一極集中は加速し、地方の人口減少は深刻な問題となっており、その対策が急がれる。

そのような中、平成31年度当初予算は、本年4月に統一地方選挙が執行されることから、義務的経費や継続事業等を中心とした骨格予算となっており、突出した予算計上はないが、一般会計当初予算は28億9,700万円で、対前年度比1億300万円（3.43%）の減額予算となっている。

本村を取り巻く情勢は、人口減少に因る労働力不足、少子高齢化等、依然として厳しい状況ではあるが、森林環境譲与税の導入は朗報である。

今後は、「諸塚村人口ビジョン・総合戦略」に基づき、村民の視点に立ったきめ細やかな施策を、更に推進することを期待し総括意見とする。



個別意見

1. 人口減少に因る労働力不足への取り組み
2. 医療福祉を担う人材の確保
3. 自然災害への事前対策の徹底

28億9千7百万円（当初予算）

平成31年度一般会計予算

平成31年　第1回定例会

（前年度 30億円　比較 1億3百万円減）

議会費	総務費	民生費	衛生費	農林水産費
4,600万円	4億7,100万円	3億8,900万円	1億4,600万円	7億8,600万円

商工費	土木費	消防費	教育費	災害復旧費
3,400万円	2億5,100万円	2,800万円	2億4,300万円	900万円

単位：千円

特別会計	
会計名	予算額
国民健康保険	337,207
後期高齢者医療	31,450
介護保険	268,500
簡易水道事業	28,733
公共下水道事業	18,387
診療所事業	363,000
発電事業	4,325
特別会計合計	1,051,602

予備費	公債費
1,000万円	3億600万円

予算審査

予算審査

一般質問

今回四名の議員が質問をしました。

①椎原橋ならびに九郎山桐の塚公衆トイレについて

黒木　重人 議員

黒木議員
問　椎原橋トイレは平成９年に県が設置、諸塚村に管理委託され清掃管理を近くの民間に委託管理している、利用頻度がきわめて高く利用者から「古い、汚い、暗い」の苦情も多い。塚原発電所建屋の保存があるが、その場所への移転はできないか、またできないのであれば、早期のリニューアルを願いたい、また桐の塚のトイレ等はまだ存続するのか伺う。

西川村長
答　椎原橋トイレは建設から20年が経過し老朽化している。２度の水害等での更新をしていたが、来年度当初予算で洋式化を含めたリニューアルをする。また、桐の塚や猿越公園のトイレについては全村森林公園化構想の一環として重要な地点にあり、継続保存とする。

②県外村人会の活動状況について

黒木議員
問　県内の三地区村人会は、定期的に活動を行って諸塚村との交流も盛んだが、高齢化の影響で２世、３世の後継者が減少しつつある。村の人口減少や移住定住を含めた、県外の村人会組織へ働きかけて、村への郷愁と故郷への想いを直接話す機会を持つべきではないか。

西川村長
答　関西地区諸塚村人会は平成４年と平成６年に開催、その後の開催記録はない。首都圏諸塚ふるさと会は平成以降十数回開催されたが平成18年を最後に開催されていない。村としても諸塚村総合戦略のコンセプトである「縁を紡ぐ互縁社会の構築が真の価値を生む」関係人口の拡大に努め村民あげて、「首都圏諸塚ふるさと会」の基礎作りを進めたいと思い、当初予算に経費の一部を計上した。

西川村長

村内の空き家の現状とその対策について

中田　政雄 議員

中田議員
問　空き家が増えたことで、国策として、空き家対策を進める必要性が高まり、特別措置法が制定された。市町村の空き家対策に法的根拠を与えたが、現時点での空き家の状況はどのようになっているのか、把握の内容とそれを踏まえての対策について伺う。

西川村長
答　平成28年度に行った住宅の全棟調査の結果、空き家が84戸あるが、詳細な状態は確認していない。活用の可能性のあるものが14戸ある。空き家に関する対策を総合的かつ計画的に実施していくためにも、諸塚村空き家等対策計画を早急に作成する必要がある。

中田議員
問　特別措置法では、民間団体も含めて、個人の空き家への調査はできない。行政の関わりが必要である。

西川村長
答　本当に悩ましく、難しい部分を抱えた問題・課題であるが、解決に努めていきたい。

①人口減少対策について

山本　利夫 議員

山本議員
問　人口減少が全国的に大きな問題となっている。何らかの対策を講じなければ、人口の現状維持はできなく、減るばかりである。一つの提案として、村内の児童・生徒の学力が優秀であることからそれを利用して、村外から家族で移住していただき、子どもは諸塚の学校で勉強して、親は仕事に通勤していただく。そのような熱心な家族を日向市近辺の市町村から募集したらどうか。

西川村長
答　高齢化率の高い諸塚村は自然減による人口減少は今後も続くことが予想される。施策の第一は定住者の転出防止対策である。そのために若者向け公営住宅の整備、住まい環境整備による持ち家改修事業、高校等の奨学金などによる保護者負担の軽減策が必要である。提案の件につきましては、幾つかのハードルがある。まず住む家の確保、二つ目に地域のコミュニティに参加していただけるか。三つ目に近隣市町村も児童・生徒が減少しているので子どもの奪い合いになる恐れがある。人口減少を止めるのは難しいが、緩和策のために少しでも可能性があるとこには積極的に取り組みたい。

山本議員
問　慎重な中にも大胆なことも必要である。移住のための住宅が、利便性の高いところに幾つか必要である。募集については、日向市及び近隣町村、それに県職員も可能性がある。

西川村長
答　諸塚村はこのような限られた土地なので、公営住宅をリフォームして新築同様にして生活していただけるのではないか。

甲斐教育長
答　教育委員会としましても、学校のあり方検討会でも検討していきたい。また、それぞれの学校の保護者、地域の方々のご意見を伺いながら取り組んでいきたい。

甲斐 教育長

②議員報酬について

山本議員
問　諸塚村の議員の報酬は県内17町村中一番低いのが現状である。子育て中の方は経費的に無理があり、自然と高齢の方ばかりになっている。議員のなり手不足を解消するためには報酬をあげるのも一つの方法ではないか。

西川村長
答　議員の報酬については平成17年度から改定は行われていなく、我々特別職についても平成22年度まで減額改定をして今日に至っている。改定が行われなかった背景としては、本村が合併の道を選ばず自立の道を選んだこと。平成16・17年に相次いで襲来した台風による未曽有の大災害がある。この程、特別職報酬等審議会を開催し答申をいただいた。

山本議員
問　答申の結果は、厳しいなとの思いである。前回は無投票でしたが、今回は幸いなことに選挙があるようなのでよかったと思う。近々また特別職報酬等審議会を開催してほしいものである。我々議員としても、要求するばかりでなく、議員としての資質の向上を図らなければならないと思う。

西川村長
答　せめて２年から３年に一回は報酬等審議会を開催しながら、現在の人口減少社会の中、議員のなり手不足もあり、村全体、人材不足が深刻化していくので、財政事情も勘案し、村民の理解を得ながら進めていきたい。

森林環境譲与税の使途について

岩本　國和 議員

岩本議員
問　人口減少、少子化が進んでいる中、平成31年度から譲与税決定した森林環境譲与税をどのように活用していくのか答弁を求める。

西川村長
答　森林環境税は、２０２４年度から課税され、森林環境譲与税は、来年から前倒しで本村には２，５００万円が交付される。徐々に増額され、２０３２年度には、８，５００万円が支給される見込み。林業担い手対策事業として社会保険、年末一時金の一部助成、安全装備の助成、林業大学校への通学助成、林地台帳整備、森林認証審査経費といった五つの事業で山に還元することを考えている。

歳入歳出予算に対する質疑応答（総括質疑）

そこが聞きたい

（質疑）

①乾椎茸価格安定基金について

昨年の秋子の豊作、乾椎茸の売れ行き不振により平均価格が2,500円程度に下がっている。村単独による乾椎茸価格安定基金の創設を検討しては。

答弁

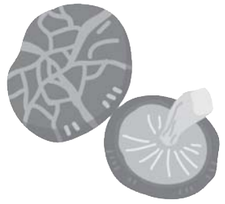
椎茸価格の低迷による生産意欲の減退、植菌量の減少を危惧している。安定的な価格が維持できるよう、最低保証的な制度の必要性は感じているが、膨大な財源を必要とするため難しく、村単独で実施するしかない。

（質疑）

椎茸振興基金の残高が6千百万円あるが、ここ数年は動きがない。安定基金の創設には、生産者からの積立も必要であろう。村の四大基幹産業である椎茸の生産者の不安を払拭するためにも基金創設は必要では。

答弁

研究課題とする。



（質疑）

②鳥獣害防護柵の設置について

金属メッシュについて受益者数が3戸あれば、無償で資材提供を受け自力施行することができるが、1組の場合は、3割負担となる。美郷町では、3組いれば場所が離れていても、補助対象となるようだ。同じ国の補助制度なのに、なぜ本村と取扱が違うのか、不公平感が出ている。

答弁

3戸以上の場合は、無償で貸し付けている。個人の場合は、通常どおり3割負担となる。説明が不十分であったと反省しているが、同一公民館程度の飛び地でも補助対象となる。

（質疑）

③畜産センターの堆肥処理について

先に堆肥処理についての一般質問が出されたことに対して、予算書を見る限り、対応が見られないが。

答弁

畜産センター、農協といった関係団体とも協議している。早急に設備関係に手を加えるのは難しい。北郷の堆肥処理施設も満杯で地元優先となっている。村内消費を優先する以外にない。

（質疑）

議員になってから継続して質問しているが、真剣に行政が考えているか疑問に思っている。畜産農家の一番の悩みは堆肥処理であり、村内消費の増大は見込めず行政の支援が必要である。

答弁

堆肥施設が満杯の状態にあるのは確認している。一自治体だけの問題ではなく、県への要望や努力は常日ごろ行っている。

そこが聞きたい

（質疑）

④国道503号整備促進、飯干トンネル早期着工について

年1回開催の決起大会、県への要望活動により八重の平工区の完成、宮之元改良工区の決定を喜んでいる。今後の取組みは。

答弁

決起大会だけでなく、国県への要望活動は継続していく。公明党幹部との新春懇談会にも国道503号のことを取り上げてもらった。日向市・県議も国道503号の必要性を認識、支援連携をもらっている。県の財政事情により、トンネルに着手すれば、途中で止めるわけにいかず、膨大な財源を必要とするため、道路改良が優先される。

（質疑）

国に陳情した際に、県への働きかけも効果があると言われた。文化経済、命の道、防災の道として、行政だけでなく住民を巻き込んだ陳情が必要とされる。待ちの姿勢でなく、攻める姿勢が必要

答弁

住民に過重の負担をかけることなく、攻めることも大事だが、緩急のテクニックも求められる。

（質疑）

議会と行政が一体になって要望することを切望

（質疑）

⑤せせらぎの里の人材不足について

人材不足の問題は、地方はより深刻。生活支援ハウスの再開についての計画は。

答弁

委託料750万円を計上、一刻も早く復旧したい思いであるが、本体施設の人材確保が優先される。奨学金救済制度や支援金制度が浸透し1名の雇用が決定したが、生活支援ハウスへのシフトの見通しは立たない。

（質疑）

福祉関係の学校からのインターンシップ制度はないのか。

答弁

医学生等研修支援事業として予算を確保している。県立看護大学、九保大から派遣されている。

（質疑）

介護に限定せず、幅広く応募を

答弁

介護職員の確保に努めていく。

答弁

学生の意向を尊重しながら、カリキュラムは自由選択としている。

（質疑）

⑥バイオマス施設・森林組合大径木工場について

バイオマス発電の成功事例は全国でも2割、慎重に取り組む必要がある。大径木工場の建設には、人材不足、敷地不足、材の安定供給に不安がある。中国木材の厚い壁や北郷、諸塚、椎葉に存する加工場の併存に懸念

答弁

バイオマス発電については、研究を優先し、慎重に取り組むべきである。小規模な木材加工場については、淘汰されることは予想されるが、小規模なりの特性を生かした研究議論が必要である。

（質疑）

試算決算を充分に考慮し慎重な取り組みが必要である。

そこが聞きたい

（質疑）

⑦議員報酬について

現役議員からの質問は勇気がいる。議員構成として40・50・60代、男女の適正バランスが必要であるが、子育て中の議員には特別枠がなければ、立候補するに難しい部分もある。

答弁

合併せずに自立を選択した経緯があるが、若手が立候補する環境づくりが必要。特別報酬審議会の答申は尊重すべきである。

（質疑）

⑧もろつか未来塾について

取り組みに期待をしている。内容の説明を

答弁

9月議会の付帯決議に社会教育の充実が出されたことに呼応しての施策。諸塚の将来を担う人材育成、若者の意見を聞く機会、異業種間交流の場、社会人としての素養を身に付けることなどを狙いとする。概ね45歳までを対象とし、公民館に推薦依頼。自ら学ぶワークショップ形式としている。

（質疑）

社会教育が大切である。

議会活動報告

月	日	行事名	場所
1	3	第73回諸塚村成人式	中央公民館
	6	諸塚村消防出初式	村民グラウンド
	13	第9回市町村対抗駅伝大会（～14日）	宮崎市
	20	女性の集い	中央公民館
		日向地区村人会	日向市
	24	三村議会協議会総会	諸塚村
	28	日向市・東臼杵郡議会議員研修会	日向市
	29	広域連合議会運営委員会	日向市
	30	町村議会時局講演会	高原町
2	6	市町村総合事務組合議会定例会	宮崎市
	13	県町村議会議長会役員会	宮崎市
	14	入郷衛生組合議会	美郷町
		広域連合議会定例会	日向市
	20	県町村議会議長会定期総会	宮崎市
	25	連合所管事務調査	委員会室
3	6	平成31年第1回定例議会（～15日）	議場
	7	本会議	議場
		予算審査特別委員会	委員会室
	8	予算審査特別委員会	委員会室
	11	予算審査特別委員会	委員会室
	13	予算審査特別委員会（まとめ）	委員会室
	15	本会議（最終日）	議場
	27	北部広域行政事務組合議会定例会	延岡市
	29	東臼杵郡議会議長会定期総会	日向市

市郡議員研修会

三村議会（黒原を視察）

編集委員会

所管事務調査報告
総務・産業建設常任委員会

平成31年2月25日実施

昨年からの調査事項であったが、視察先が、特別養護老人ホームであったためインフルエンザの流行とその感染の配慮から、役場住民福祉課を通じて、日程調整の結果、せせらぎの里の名和施設長に役場の方まで来ていただき、講話形式での勉強会という趣で実施をした。

施設長からは早いうちに、全委員に１００ページ以上にもなる資料を提供してもらっており、予備知識のための予習にもなり、大変ありがたく感じた。その内容として、今日の労働力不足も含めた地方の少子高齢化は、１５０年前の明治維新の政策により、富国強兵、殖産興業への大転換によって、農村から都会への人口移動を起こしたことに端を発し産業構造の変化や家族構成の変化となり、今でも、東京への一極集中に歯止めがかけられない状況にある。そういった中で、介護福祉の規定やそれに伴う法律の制定が行われてきたところであるが、介護の歴史は福祉法の制定が55年前であり、寮母職と言われてから、国家資格として社会福祉士、介護福祉士として格付けがなされたのは31年前である。介護保険制度が施行されたのが、19年前の２０００年で２００７年の法改正で介護福祉士の資格取得の方法の一元化、定義規定、義務規定の見直しが行われるなど、介護報酬規定等も含め介護に関する法の改正は目まぐるしく変わってきている。

介護に携わる人材の確保に向けた取り組みは、県の社会福祉協議会でも行っている。せせらぎの里において、現在、夜勤10名体制で対応しているが、それ以上の人材確保の手段として、諸塚独自の「就労支援金制度」や「給付型奨学金制度」での地域単位で育てて確保する長期的な視点に立った取り組みを行っている。介護職不足を地域課題と捉えて、行政、施設、村民が一体となって行動する必要性への理解と協力を強く求めると説かれていた。

今後、ますます長寿命となり、介護は誰もが避けて通ることができないものである。人間同士が感情を持ち、それが入り混じった職場で介護される側もそれにあたる側も相方が笑顔の絶えない施設であり、労働環境の改善も含めた、より一層の努力の必要性を強く感じた次第である。

せせらぎの里

役場委員会室

永年の功績を顕彰

第1回定例議会初日、議場において3名の方に表彰伝達が行われました。

若本　幸徳　議員

◆全国町村議会議長会
特別表彰

◆宮崎県町村議会議長会
正・副議長として6年以上在職

◆宮崎県町村議会議長会
議員として12年以上在職

梅田　義輝　議員

◆宮崎県町村議会議長会
議員として20年以上在職

中田　政雄　議員

◆宮崎県町村議会議長会
議員として12年以上在職

随想

「平成最後の卒業式」

若本　幸徳

３月定例議会も終わり、諸塚の山々に桜が咲き始めたころに村内各学校の卒業式が行われた。

その中で、諸塚小学校の卒業生は６名であった。諸先生、保護者、来賓に見守られ、在校生からの感謝の言葉や歌、卒業生は母校や在校生との別れ、親への感謝、故郷への思い等感動と涙の卒業式であった。保護者の中には、都会の学校行事を経験されている方もいて、大きい学校では味わうことのできない、温かい雰囲気の卒業式に本村独自の教育環境の素晴らしさを感じたと話されていた。

子どもたちがこの卒業式や子ども議会での将来の夢を語る中には、常に諸塚を想う熱い心が伝わってくる。その想いの中、人口減少の現実を子どもの目で真剣に捉え自分なりに考えているように思う。今年の諸塚中学校卒業式では15人の生徒の皆さんが卒業されて、希望を胸にそれぞれの高校へ進学されました。

お祝いの心とともに、一人でも多く本村を担う人に育ってほしいと願う、想い出深い平成最後の小中学校卒業式でした。

編集後記

元号が平成から令和に変わりました。
〝令和〟には、人々が美しく心を寄せ合い新しい文化が生まれるという想いが込められているようです。この優しい言葉の響きとともに希望に満ちた平和な時代となるよう祈りたいものです。

元号とともに諸塚村議会も新体制となり編集委員会の構成も変わります。平成最後の4年間、4名の編集委員で議会だよりを作成してきましたが、これで最後となりました。

これまでご愛読いただいた多くの皆様に心から感謝いたします。

（編集委員）田原尚美・堀英博・岩本國和・山本利夫

議会傍聴してみませんか？

次回の定例会は6月中旬開会予定です。

心よりお待ちしています。

お問い合わせ：議会事務局
TEL 65－1130